

第36週の発生動向 (2004/8/30~2004/9/5)

- 咽頭結膜熱については、県全体では減少していますが、先週に引き続き弘前、上十三保健所管内で**警報**が出ています。
- ヘルパンギーナについては、依然として、むつ保健所管内で**警報**が出ており、青森および弘前保健所管内での報告数も多いことから、引き続き注意が必要です。

第36週五類感染症定点把握

疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱			2	0.20	1	0.11			3	0.50			6	0.14	-11
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.75	7	0.70	1	0.11			2	0.33	4	1.00	20	0.48	13
(62) 感染性胃腸炎	14	1.75	9	0.90	2	0.22	2	0.40	6	1.00	16	4.00	49	1.17	9
(63) 水痘	4	0.50	2	0.20	2	0.22	1	0.20	3	0.50			12	0.29	-12
(64) 手足口病	2	0.25	1	0.10	3	0.33			14	2.33			20	0.48	-1
(65) 伝染性紅斑					1	0.11			1	0.17	1	0.25	3	0.07	±0
(66) 突発性発疹	6	0.75	8	0.80	4	0.44			3	0.50	7	1.75	28	0.67	-2
(67) 百日咳	1	0.13							2	0.33			3	0.07	3
(68) 風疹					1	0.11							1	0.02	1
(69) ヘルパンギーナ	29	3.63	26	2.60	6	0.67	5	1.00	5	0.83	27	6.75	98	2.33	-37
(70) 麻疹(成人を除く)															
(71) 流行性耳下腺炎	3	0.38			5	0.56	2	0.40	3	0.50			13	0.31	-6
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					3	1.50							3	0.27	-1

	定点数			
	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

※ インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報、■ は警報です。 「空欄」: 患者発生数0

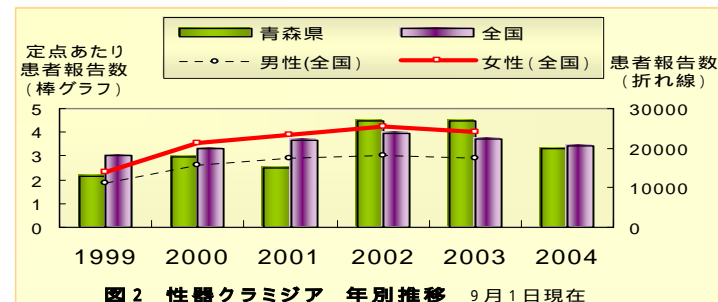
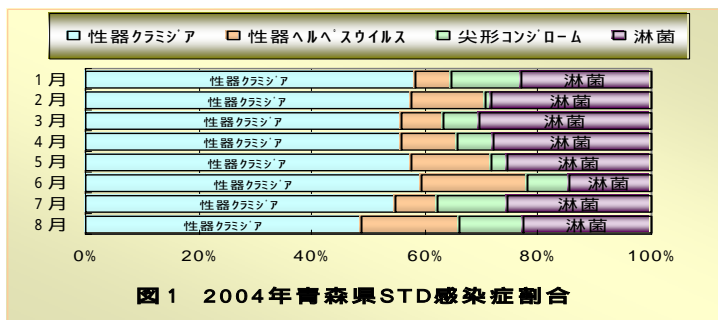
表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

腸管出血性大腸菌感染症の散发報告が目立っています。

- (14) 腸管出血性大腸菌感染症 (三類全数把握疾患) 合計4人 (16年計 20人)
→ 青森保健所管内 (O26:1人, 不明:1人)、弘前保健所管内 (O157:1人)、八戸保健所管内 (O157:1人)
- (59) RSウイルス感染症 (五類定点把握疾患) 弘前保健所管内 5人 (16年計 32人)
- (82) マイコプラズマ肺炎 (五類定点把握疾患) 八戸保健所管内 1人 (16年計 80人)

感染症の窓

性器クラミジア感染症



疫学・病原体

性感染症 (STD:sexually transmitted diseases) とされる疾病の中で世界的に最も多い病気です。青森県でも高い割合になっています (図1)。性別では、女性がやや高い傾向にあります (図2)。病原体は *Chlamydia trachomatis* で、主に性行為によって感染します。過去5年間の感染症発生動向調査では男女とも30歳未満の年齢層が高い割合となっています。

臨床症状

潜伏期は1~3週間です。男性では尿道炎、精巣上体炎、女性では子宮頸管炎、骨盤腹膜炎、肝周囲炎を引き起こします。ほとんどの場合、明らかな自覚症状が無いことから、感染が潜在化しながら広がります。また、母子感染した新生児では結膜炎や肺炎を高率に引き起こします。